

No.77

すくらむ

2011.9発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

センター業務から

福井県特別支援教育センターの取組

P2

センター新体制について

園・学校支援を目指して

P3

特別支援教育あらかると

福井県のこれからの
特別支援教育の在り方について

P4

平成23年度研修事業より

特別支援教育研修(ベーシック・ステップアップ研修)
研修講座No.8、No.11

P5

特別支援学校の センター的機能

福井県立盲学校の取組

P6

シリーズ“学校・学級紹介”

福井市社西小学校 通級指導教室

センター業務から

福井県特別支援教育センターの取組

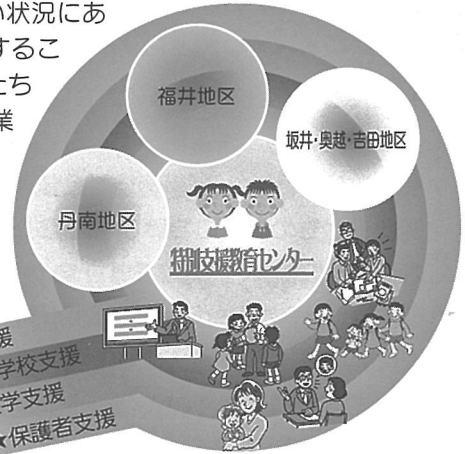
福井県特別支援教育センターは、障害のある子どもや教育的ニーズのある子どもたちを支える保護者や担任、園や学校、地域を支える教育機関です。県内を4地区(坂井奥越吉田・福井・丹南・嶺南)に分け、「学校・園支援」「就学支援」「保護者支援」「研修支援」を展開しています。(嶺南地区は、福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課が担当しています)

当センターは設立して30年になります。開設当初は、「障害児の教育相談と就学指導の推進」を主な業務にしていました。そのため、医療・福祉・教育機関の連携のもと障害の早期発見・教育を行うことが期待されていました。また、その当時より、必要に応じて、園や学校を訪問して、教育相談や研修を行ってきました。

近年は、特別支援教育の流れで、通常学級に在籍する教育的ニーズのある子どもたちの支援についての相談が多くなっています。早期からの適切な対応や、一人一人の教育的ニーズに応じた支援、自立や社会参加に向けた主体的な取組、共生社会の基礎を築くことは、障害の有無にかかわらず、すべての子どもたちにとって大切なことです。 昨今、教育のあらゆる課題について、特別支援教育と切り離して考えることは難しい状況にあります。子どもを理解すること、保護者を理解すること、クラス全体を理解することなど「理解」に基づく支援は、教育の根本でもあります。まずは大人が自分たちのかかわり方を振り返り、支援方法を共有しあうことが必要です。日々の授業づくり、学級経営の見直しから始めましょう。

また、特別支援学級や通級による指導、特別支援学校の専門性向上や特別支援教育コーディネーターの育成をめざした研修を今後も提供していきます。

当センターでは、子どもの行動の背景について一緒に考えながら、よりよい支援について、関係者だけでなく、学校・園・地域ぐるみで取り組むための方策を探っています。そのため、私たち所員も自分たちの取組を情報交換し、研鑽に努め、専門的な力量のアップを目指しています。

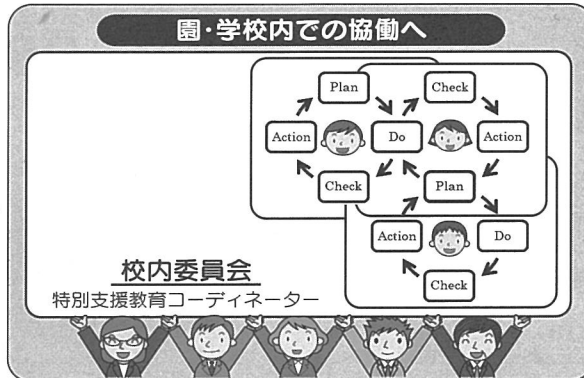
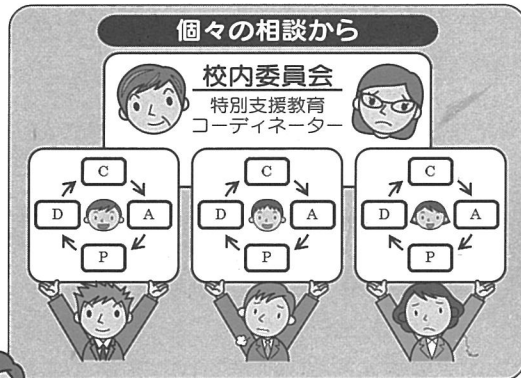


新しい地区体制で 園・学校支援を目指して

新体制で、センターは何をするの？

園や学校が、主体的に子どもの支援を考え、協働して子どもの支援を行うよう支援します

- 学校全体を視野に入れて相談を行います。
- 学級経営、授業づくりについて一緒に考えます。



園や学校への支援をどんな方法でするの？

教育相談をととして支援します

「子どもたちへの支援の充実」「園や学校内での先生方の協働による支援」を支えるため、訪問相談を主体とした授業参観、発達検査、担任の先生方への聴取を含めた「教育相談」に加えて、園や学校、保護者のニーズに合わせた「巡回指導」や「教育指導」を行いながら、支援会議の開催や関係機関との連携をととして支援します。

◆巡回指導◆

通常学級に在籍する学習や行動の面で気がかりな児童生徒に対し、学校が実施する個別指導を支援します。

- ・当センター所員による対象の児童生徒への指導場面を学校の個別指導担当者等に見てもらいながら、個別指導の進め方について学校の先生方と一緒に考えていきます。
- ・対象の児童生徒の「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」作成に協力します。
- ・対象の児童生徒についての支援会議を定期的に行っていく体制作りを支援していきます。

◆教育指導◆

発達に気がかりな面がある子どもと保護者を支援していきます。

- ・当センターへの通所による指導をととして、子どもを理解し、よりよいかわり方について、保護者と一緒に考えていきます。
- ・子どもが在籍する園や学校を定期的に訪問し、先生方と保護者が子どもへのよりよいかわり方について一緒に考えていけるように支援します。
- ・保護者同士がつながる場を提供していきます。

研修をととして支援します

子どもたちを直接支援する先生方に、多様な学びの場を提供します。

- ・園や学校で行われる「事例検討会」に参加し、先生方が主体的に子どもの支援について考えることができるように会の持ち方について提案します。
- ・校内や地区(中学校区や地域)の研修会に参加し、特別支援教育の理解・啓発を進めます。
- ・特別支援教育にかかわる研修を企画し、先生方のスキルアップを目指します。



私たちが、園・学校を支援します

所長 小嵐恵子
次長 松村英岳
主任 高橋紀美子(総務)
主任 西尾幸代(地区総括)

福井地区担当

齋門容子(地区長)
岸野美佳
野村陽子
稲葉香
上埜良子

嶺南地区担当

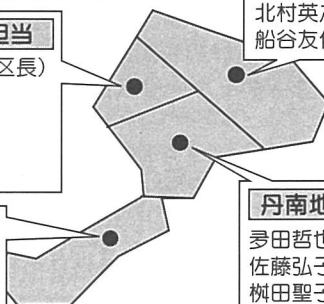
嶺南教育事務所
特別支援教育課

坂井・奥越・吉田地区担当

大崎忠久(地区長)
為国順治
北村英之
船谷友代

丹南地区担当

夢田哲也(地区長)
佐藤弘子
樹田聖子



特別支援教育あらかると



福井県の これからの特別支援教育の在り方について

福井大学大学院（教職大学院） 〈教授〉 松木 健一 氏



早いもので特別支援教育元年（H19年）から5年目になる。

福井県では「特別支援教育」の言葉も定着し、順調に推移してきていると思われるが、同時に新たな課題もはっきりしてきた。

課題の1つは、学力観の転換にかかわることである。日本では、ここしばらく教員定数の大幅な増加は期待できない。その一方で、地球的規模で進む「障がい」についての捉え方や政策変更を受け、日本としても率先してインクルーシブな教育の実現を目指さなければならない立場にある。こういった板挟みの中であって、従来通りの学力観のままでは、子どもと教師の双方がイラつかざるを得ない状況が生まれている。実際に多忙化の中で発達障害児を抱え、対処しきれなくなっている教師や、他児と同じように一律に行動しようとして調整を乱してしまう児童がいる。この現状は福井県においても変わらない。再度、公教育としての学校での学びとは何かを問い直さなければならない時期に来ている。幸い知識基盤社会に求められている「生きる力」や、それと基底を同じくするキーコンピテンシーといった能力概念は、学力観転換の突破口になろう。同じ能力の者を揃えて指導伝達する学習の在り方から、能力の異なる者同士が協働して課題解決を図る学びの在り方への転換である。全ての子どもに対して、他者と共に生きていく上で必要とされる知識や技能の学びなくしては、インクルーシブな教育の実現はあり得ないであろう。

課題の2つめは高等教育についてである。不思議なことに特別支援教育の浸透は、インクルージョンもさることながら特別支援学校への偏見の解消に功を奏し、特に高等部への入学希望者を増加させた。その結果、十分にニーズに応えられない状況が全国的にうまれている。しかし、高等養護学校を建設すべきかどうかは判断に迷うところである。インクルーシブな教育を実現するためには、多くの高校に発達障害等の理解を促す必要があり、また同時に特別支援学校教員の学校支援能力の向上を図らなければならない。この点からすると、各高校に特別支援学級を設置したり、特別支援学校の分教室を併置したりする方が有効である。支援の必要な生徒の移行支援あるいは多様なキャリアデザインという視点からも分教室の併置は効果的であろう。インクルーシブな教育の実現を目指し、感覚障害の特別支援学校の児童生徒数の減少と合わせて、総合的な判断が今求められている。

平成23年度 研修事業の紹介



特別支援教育研修ベーシック研修

小・中・高対象

ベーシック研修は、初めて所属校での特別支援教育の推進を担う立場となった先生方を対象としており、気がかりな児童・生徒への対応と支援についての基礎を、日々の教育実践や校内支援体制づくりを通して学ぶ実践中心の研修です。今年度は、50名の先生方が受講しています。

第1研修では、福井大学の笹原未来先生から特別支援教育の現状と特別支援教育コーディネーターの役割について講義を受けた後、小グループに分かれ協議を行いました。特別支援教育に関する経験を語り合う中で、先生方一人一人が特別支援教育をどのようにとらえているかを整理した後、地区毎、校種間の情報交換などを通して所属校の現状や課題について考え、1年間の実践研修をスタートしました。第2研修では、話し合いを円滑に進め、連携したチーム支援を進めることについて考えるファシリテーション(写真)や、個別の教育支援計画・個別の指導計画について研修しました。

今年度から小・中・高合同で研修を実施しています。研修を通して、地域の先生方同士がつながり、校種を解いた連携が広がることを願っています。



特別支援教育研修ステップアップ研修

小・中・高対象

ステップアップ研修は、特別支援教育コーディネーターとしての実践経験がある先生方を対象に、その役割をより計画的・系統的に果たしていくためのスキルを、実践を通して学ぶ研修です。今年度、3名の先生方が受講しています。

全6回の研修は、所属校における実践を定期的に報告・省察するベーシック研修との合同研修と、より計画的・系統的な児童生徒への支援のために、個別の支援計画等の作成や移行支援について学び、実際の取り組みに活かす内容とに分けられます。

第2研修では、個別の教育支援計画・個別の指導計画についての演習を行いました。研修者と所員が模擬支援会議を行い、子どもを見立て、支援方針を立て、具体的な指導場面での支援を考えました。演習を通して、多くの人とやりとりをし、意見を出し合うことが、今後の対応の方策を導き出す上で非常に有効であるということや、支援会議の進め方や、作成にあたって担任の先生にどのような支援が必要になるか、あるいはどういった人とのつながりが大切になるか等、コーディネーターの役割について整理しました。模擬支援会議では、特別支援教育コーディネーターとしての経験を何年か重ねているからこそ、子どもや担任の気持ちに寄り添った発言が多く聞かれました。

研修講座 No. 11

平成23年8月2日(火)

通常学級での学びを支える特別支援教育Ⅱ

ー通常学級での特別支援教育スタンダードー

- ・講師：日野市立日野第三小学校 校長 京極 澄子 氏
日野市立潤徳小学校 統括校長 宮崎 芳子 氏
- ・会場：福井県立大学
- ・受講者数：260人

講師の先生方は、長年通常学級の担任として御活躍され、平成17年度より「東京都日野市特別支援教育あり方検討委員会」の正・副委員長として、全国に先駆けた様々な取り組みを推進してられました。講座では、特別支援教育の視点を活かした通常学級における学習環境や指導方法の工夫、校内システムの構築などについて、写真を交えながら分かりやすく講義をしていただきました。

受講者の感想から

- ・すばらしい校長先生のリーダーシップのもと、日野市全体の教職員が一丸となって特別支援教育の充実に向けて取り組んでいることが分かりました。自分の日々の実践を振り返る良い機会になりました。
- ・良い授業には特別支援教育の視点がある、ということを知りたかったと思います。
- ・長年実践をされてきたお二人の話には、大変説得力がありました。私も自分の勤務校で、いろいろと仕掛けてみたい欲求にかられました。



研修講座 No. 8

平成23年6月21日(火)

気がかりな幼児とのかかわりー気づきから始まる安心支援ー

- ・講師：知的障害者通所授産施設 神戸市立たまも園 園長 松本 恵美子 氏
- ・会場：福井県立図書館
- ・受講者数：69人

松本先生は、ケースワーカーとして長年障害児とその家族を支援してこられました。その御経験から、発達障害の特性を踏まえた子ども理解、早期発見のポイント、子どもの思いに寄り添ったかかわり方、保護者支援のあり方等について、事例を交え分かりやすく講義をしていただきました。

また、午後の演習では、子どもが困っている場面を想定し、講義で学んだ子どもの見方・とらえ方で子どもの行動の意味や対応の仕方を考えました。

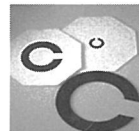
受講者の感想から

- ・具体的な例から、子どもとのかかわり方や肯定で伝えることなど大切なことをたくさん教えていただき、明日から実践していきたいと感じました。
- ・保護者へのサポートについて日ごろ難しいと思い悩んでいましたが、今日の講義の内容を生かし、今後、保護者と向き合っていきたいと思いました。



1. 盲学校の教育相談活動の経緯

本校は、1913年(大正2年)に創立され、2013年(平成25年)に創立100周年を迎える、福井県で唯一の視覚障害教育の専門機関です。1980年頃より進路指導部の業務の一つとして教育相談が始まり、2002年に校務分掌として独立した教育相談部となりました。それ以来、視覚障害教育のセンターとして、より機能を発揮しやすいように校内体制づくりを工夫しながら相談活動を展開してきました。また、2006年には嶺南地区の敦賀と小浜にサテライト教室が設置され、各々月一回開催しています。サテライト教室を拠点に関係機関と連携を図りながら、嶺南地区の相談活動も少しずつ充実してきています。



ランドルト環単独視標

2. 教育相談の活動内容

盲学校の教育相談は、乳幼児から成人まで幅広く対応しています。最近の特徴としては、乳幼児相談と、こども療育センターや特別支援学校からの視力検査や見え方に関する相談の依頼が増えてきていることです。ケースによって、継続的な相談が必要な場合と、不定期に相談にあたる場合とがあります。継続的な相談においては、来校相談と巡回相談を組み合わせを行い、対象児生の実態や保護者、在籍校の要請、また、本校の体制に応じて回数・時間・内容などを決め、年間を通して予定を組みます。

来校相談は個別対応が中心で、相談担当者が子ども一人一人の見え方を踏まえて、探索力、認知力を高めるような活動を取り入れるようにしています。保護者に対しても懇談の時間を設けています。

また、小集団活動もあり、参加者同士の交流や情報交換を行っています。対象児生や目的の違いにより、以下のようなスクーリング活動を実施しています。どの活動も視覚障害に配慮した活動を行うことにより、対象児生が自信を持てるように支援しています。



土曜スクール(拡大読書器の活用訓練)

土曜
スクール

…単眼鏡や拡大読書器などの活用訓練、実験・実習・工作・運動などの集団的活動

サマー
スクール

…乳幼児を対象に集団での保育活動、保護者の交流と情報交換

オータム
スクール

…調理活動、運動的活動、保護者研修



乳幼児サマースクール

巡回相談では、保育園、幼稚園、小・中・高等学校及び特別支援学校等を訪問し、見え方の実態把握や、環境・かかわりの配慮、教材・教具の工夫について支援を行い、視力検査や拡大教科書の活用や使用についての相談等も行います。更に、就学についての情報を提供したり、必要な場合には現職教育などの研修も行います。



見えにくさのあるお子さんについて

視力の弱いお子さんは、自分から「見えにくいから何とか見えやすくしてほしい」と訴えることはほとんどありません。ですから、お子さんの学習上の苦悩に気付かず、「おとなしくて手のかからない子」という印象で終わってしまっているかもしれません。しかし、よく観察すると、まぶしそうにしていたり、片目をつぶっていたり、顔半分を前に出していたり、かなり近づいて教科書を見ていたりという行動が分かってくると思います。両眼の矯正視力が0.1に満たない子、明るすぎると見えづらい子、視力はそれほど低くなくても視野が狭い子など、視覚に様々な問題を抱えているために、通常の学級でうまく学習できていない子がいます。私たちは、具体的な教科の学習支援や日常生活面での支援を先生方に示すことで、そうした視力の弱いお子さんの教育の充実に貢献できればと考えています。いつでもご相談下さい。

お問い合わせ・ご相談は…

福井県立盲学校教育相談部

〒910-0825 福井市原目町39-8

TEL(0776)54-5280

FAX(0776)54-5289

福井市社西小学校 通級指導教室「いきいきルーム」



「先生、来たよー」「今日はパソコンできる？」カレンダーにシールを貼って、日付・曜日を確かめてからスタートです。

福井市社西小学校は平成17年度に通級指導教室『いきいきルーム』が新設され、今年度は6名が週に1～2時間活動しています。県内の通級担当教員はほとんどが3～4校の兼務であるため、本校も月・木曜の2日だけが活動日となっています。そのため題材によって、個別学習と小集団活動を組み合わせています。

毎時間の活動内容は、保護者の願いや思いを大切にしながら、担任の先生と相談し、個別の指導計画に基づいて進めています。文字の読み書き・計算・図形の認知など、その子の特性に合わせた教材や学び方で、「わかった!」「できた!」と感じられる時間であってほしいと考えています。苦手なことやつまずきを補いながら、一方で得意な分野を伸ばす活動を行います。できることをもっと伸ばし、学級の中で活躍でき、がんばれるエネルギーを蓄える場にもなってほしいと思っています。

いきいきルーム での やくそく

- この部屋は 楽しく 学習する 場所です
- 教室の中の ほかの物には さわりません
- 主役は 先生です
- 先生は わかるための おてつだいを します

・できぬこと
・わからぬこと
・夢中なこと



・やうとしない
・おそろしき
・わかつたふりをする



通級指導教室に通う子どもたちは、ほとんどの時間を自分の学級(通常学級)で過ごしており、集団の中でうまくやっていけるように、通常学級へ繋ぐことが通級指導の大きな役割だと考えています。

毎月の初めにカレンダーに行事の予定を書き入れて内容を確認したり、約束を決めたりすると、自分の楽しいこと(お出かけの予定、まんの発売日、家族の誕生日など)を楽しそうに話してくれることもあります。宿泊や修学旅行などの行事は、昨年の写真を見ながら日程を確認、心配なことやわからないことを一緒に考え、本番に臨みました。教室(自分の学級)より少し先の内容(音読、計算問題など)を学習し、自信をつけて教室へ戻ることもあります。また、通級指導教室で行ったゲームをみんなに紹介して、お楽しみ会で遊んだりもしました。静かな、ゆったりとした場所が確保できると、自分の行動を振り返ったり、理解を深めることも可能となってきます。



子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができるよう、保護者や先生方の理解と協力を得ながら、一人一人のニーズに合った支援を行える場でありたいと願っています。



研究発表会の御案内 発表者を募集しています

日時 平成24年2月17日(金)
会場 福井県立図書館

詳しくは9月中旬配布予定の発表者募集要項、または、センターのホームページをご覧ください。

お知らせ

平成24年度より、この「センターだよりすくらむ」を電子化し、情報をインターネットで発信していく予定です。みなさんの御意見、御感想をお待ちしています。

センターだより すくらむ 第77号

発行日 平成23年9月14日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL(0776)53-6574 FAX(0776) 52-6272
E-mail info@fukuisec.jp
URL http://www.fukuisec.jp
福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課
〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205
TEL(0770)56-1095 FAX(0770)56-1391
敦賀駐在 TEL/FAX(0770)24-0421
印刷所 佐野印刷(株)